

Q. AIの考えは
誰にもわからない？



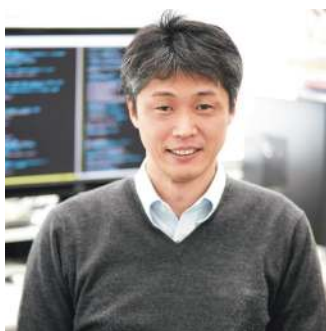
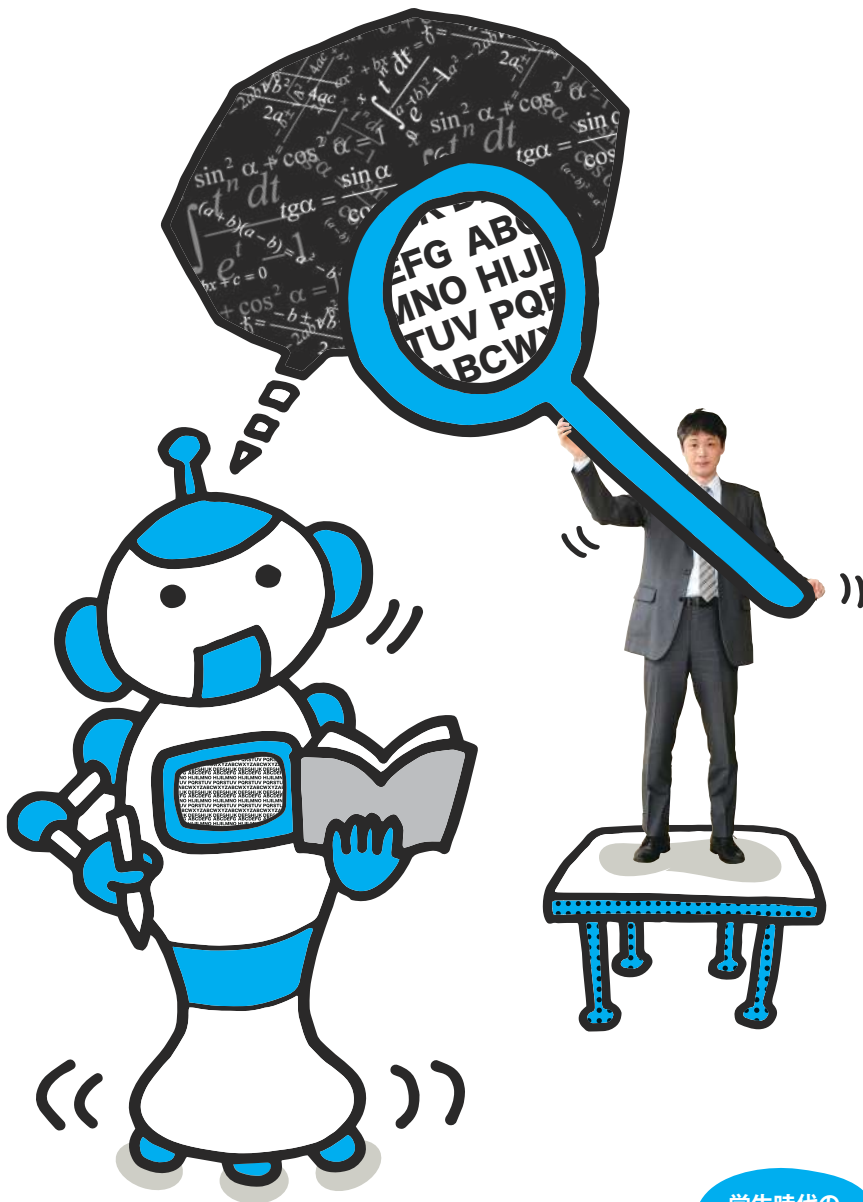
直感で判断するAIの思考を 読み解く研究が始まっています。

AIが身近になった時代、共存していくためには、お互いの理解が必要。

皆さんも実感されていると思いますが、AI技術はどんどん私たちの生活の中に入ってきています。その技術は日々進化し、AIの判断能力は人間に近づいてきていると言えます。ではAIはどのように学習し成長しているか、皆さんは想像できますか？実は最近話題になるAIの多くでは、データからどのように学んだらいいのかは人間に教えられています、最終的に何を学んだのかが不明なのです。いわば膨大なデータを元にして「これかな？」と直感的に選んだ判断がズバズバ当たっている状態です。直感がとても優れているのはいいのですが、人間にとってはとても不思議な存在です。AIが何を考えているのかわからないというのは、なんだか不安ですね。今後、AIと人間が共存していくためには、AIがどんなことを考えるのか理解することが必要です。

数値を記号にする技術の開発。

人間は数値(単独では意味が定まっていない)と記号(単独で意味が定まっている)という2つの世界の情報を扱っていますが、人間の判断能力に近づいているとされるAIは基本的に数値の世界しか持っていません。AIが何を考えているのかわからないという理由の一つがこれです。私は現在、データマイニング手法を使って、AIの振る舞いを理解する手法を研究しています。データマイニングとは、数値を含んでいた、規模が大きすぎて一目では追えなくなったりしているデータの中から、人間にとって意味のある情報(多くは記号で表されます)を取り出す作業です。数値と記号の世界を自由に行き来し、AIの考えを一部でも理解できるようになれば、エンジニアにとって新しい世界が拓けるでしょう。



亀谷 由隆 先生

PROFILE

論理的推論と確率的推論を同時に行えるプログラミング言語の研究をより深く進めたいと、この世界に入った亀谷先生。複雑になりがちなAI技術だからこそ、アイデアはつねにシンプルな方向に発展させるよう気を付けているそうです。



Prologの技芸 / 共立出版

Prolog(プロログ)にハマっていました。

大学の実験科目で、(皆さんが数学の時間に学ぶ)証明の仕組みを使ってコンピュータに計算をさせる Prologというプログラミング言語と出会いました。図書館で繰り返し借りて読んでいたのがこの本です。鮮やかな浮世絵の表紙とディープな中身というミスマッチが気に入りました。

学生時代の
マイブーム